おもしえっけの～♪ 森

平成30年度　つるおか森の保育活動記録

はじめに

冬の森はしんと静まりかえっています。雪の上には動物たちの足跡が残され、木の小枝や木の実などが落ちています。防寒着に身を包んだ子どもたちは、雪の上に寝転がったり、ソリ滑りをしたり、それぞれに雪遊びを楽しんでいます。帰る頃にはかわいい雪だるまがお見送り。今年のワークショップ「親子で雪山遊び」の“ひとこま”です。

つるおか森の保育研究会は発足から９年が経ちました。子どもたちがいつでも自然に親しみ楽しむことができるようにと、鶴岡市の自然と文化を活かした“鶴岡らしい森の保育”を目指して活動に取り組んでいます。研究会は来年 10 周年を迎えますが、これまでたくさんの方々とご一緒に活動に取り組んできました。また、地域の皆さまにも大変お世話になりました。

研究会では毎年、１年間の活動記録を『おもしぇっけの一♪森』という冊子にまとめています。他にも、「つるおか森の保育だより」の発行や市役所ロビーにおける「写真パネル展」などを通して、私たちの活動を広く市民の皆さまに紹介しています。また、毎年開催している「つるおか森の保育フォーラム」では、研究会の活動を多くの方々に知っていただき、これからの森の保育のあり方を一緒に考え交流していく場にもなっています。今年はフォーラムに向けた事前研修として、11 月に山梨県ハヶ岳にある“ぐうたら村”を訪問しました。“ぐうたら村”はフォーラムの講師・小西貴士氏の活動フィールドでもあります。活動プログラムを組んでいただき、とても充実した研修になりました。

私たちと一緒に森の時間を過ごした子どもたちも、今では小学生や中学生、高校生になっています。これからも研究会では“鶴岡らしい森の保育”を目指しながら、森の保育の魅力を発信していきたいと思います。そして、子どもたちの「おもしぇっけの一♪」の声が自然の中でいっぱい広がるようにと願っています。

最後になりましたが、本研究会の活動を支え、ご指導・ご協力を頂きました多くの皆さまに心からお礼申し上げます。

平成３１年３月
つるおか森の保育研究会
会 長　　神 田 リ エ

１　森の保育園体験（交流保育）　1

小堅保育園×民田保育園
黄金保育園×民田保育園

２　森の保育園体験（自主保育）　3

東部保育園、松原保育園、上郷保育園、田川保育園、
三瀬保育園、福栄保育園

３　森の自然体験　14

４　ワークショップ（夏・冬）　20

５　「つるおか森の保育フォーラム」　22

６　「写真パネル展」　23

７　研修会　23

資料　25

森の保育だより、つるおか森の保育研究会の概要

“森”の文字を３本の木で描き、それぞれの木の色は、
新緑から紅葉へと移っていく森の様子を表しています。
この木が何の木なのか…、みなさんでイメージを
膨らませてみてください。
森の活動では、五感をふんだんに使って、
いろいろなイメージを膨らませることができます。

交流保育

つるおか森の保育研究会では、主に市街地の保育園の子どもたちに自然とふれあう機会を与えることを目的に、海や山など周辺の自然環境に恵まれた保育園との交流保育を行っています。

（受入園）小堅保育園　×（訪問園）民田保育園

小堅保育園　３歳児４名　４歳児１名　５歳児４名　民田保育園　５歳児８名　４歳児７名

【平成 30 年８月７日（火）　堅苔沢の海で遊ぼう！（波戸崎海水浴場）**】**

＜活動内容＞

・シーサイドクリーン（海岸清掃）、ビーチフラッグ競争

・海遊び

活動のねらい

・集団での自然体験活動を通して、子どもが他園児とのかかわりを深める。

・普段と違う環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

「こうやって着るんだよ」

・海岸清掃・ビーチフラッグ競争から海遊び、その後の食事や食後ののんびりする時間を通して、一緒に活動する楽しさを味わった。

・海での遊びを楽しみながら、海で泳ぐことを楽しんだり、水中メガネで生き物を覗いたりと自分で活動を選んで行動する様子が見られた。

・ライフジャケットの着脱や水中メガネの使い方など、経験のある小堅保育園の子どもたちにリードしてもらいながら海あそびのために工夫したり協力したりする姿が見られた。

・安全に楽しく磯遊びするためのきまりの大切さを知り、守ろうとしていた。

ビーチフラッグ

一緒におひるごはん

・小堅保育園さんの設定で、普段できない海遊び体験だけでなく、その前の海岸清掃やビーチフラッグなど砂浜での活動を行なうことができ、子どもだけでなく職員も感銘を受けた。また、遊んだ後の温かい入浴の配慮もありがたかった。

（訪問園）民田保育園　　×　　（受入園）黄金保育園

黄金保育園　５歳児８名　　民田保育園　５歳児７名

【平成 30 年７月 13 日（金）　金峯山の沢で遊ぼう！（金峯山　安国神社周辺）】

＜活動内容＞

・沢遊び、生き物さがし

活動のねらい

・黄金小学校へ就学する児童が多い民田保育園、黄金保育園の年長児が共に金峯山で沢遊びをし、身近な山である金峯の自然に親しむ。

・黄金・民田保育園の園児同士の交流を深め、就学へ向け期待感を高める。

さわのぼり

・普段遊びなれている黄金保育園の子どもたちが、民田保育園の子どもたちをリードしながら、流れのある沢の中でも一緒に遊ぶことができた。

・はじめはどのように遊んでいいのかわからずにいた民田保育園の園児も、黄金保育園の子が遊ぶ様子についていき、沢の流れの中をどんどん進んだり、石をめくって生き物を探したりと、普段できない遊びに全身濡れながらも夢中になって遊んだ。

・捕まえたサンショウウオや沢蟹を園に持ち帰り、思い出とともに飼育した。

・「小学生になったら一緒の学校に行く」とわかるようになり、保小交流会（小学校体験）等、次回以降の交流行事にもつながることが期待される。

・毎年恒例となっている交流行事だが、今年度は初めて金峯山麓の沢で遊ぶという活動を行った。特に民田保育園の年長児は初めての体験だったこともあり、印象に残る交流保育となった。

・同じ小学校区である保育園同士、身近な環境をとおした交流体験はぜひ今後も続けていきたい。

・金峯山には、自然だけでなく、神社（祠）や石碑など、歴史文化を感じる要素も数多くある。プログラムにうまく組み込むことで、子どもたちの興味の幅を広げることができるのではないか。

民田保育園　　佐藤崇昌園長先生

平成３０年度は、交流保育に森の保育事業の補助を受け、普段民田保育園の周辺では体験できない野外活動を、他園の子どもたちと一緒に行なうことができました。小堅の海と黄金の沢、どちらにおいても普段と違う自然環境に触れて感激する体験を通して、好奇心をもって遊び、より自然への親しみを抱くようになり、また、交流保育での体験を経て、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり絵で表現したりといった活動に展開することができました。

自主保育

つるおか森の保育研究会では、山や海が近くにある保育園はもとより、市街地の保育園も身近にある公園や田んぼ、畑などを活用して活動しています。

東部保育園　３歳児 25 名　４歳児 26 名　５歳児 28 名

【平成３０年 10 月 18 日（木）赤川河川敷でデイキャンプを楽しもう　（赤川河川敷）】

＜活動内容＞

・生き物探しや草摘みをしながら、秋探しをする。

・野外で給食や、さんまを焼いて食べ、秋空のもとで秋の味覚を楽しむ。

目線の先にトンボ・・・
ゆっくりゆっくりと近付いていきます

活動のねらい

・近隣にある赤川河川敷をフィールドとしながら、生き物探しなどの夢中になれる体験を通し、心と体を育む。

・秋の自然の中で昼食をとりながら、のびのびと心地よい時間を過ごす。

・いつもは土手に近いエリアで遊んでいたが、川の近くまで行ってみた。

・今まで遊んでいたエリアからは子ども達の目線では川が見えていなかったようで、近付いて見えた景色に「わぁー海だー!!」「違うよ、川だよ!!」などと子ども達の歓声があがった。

・川近くのエリアは葛の葉が子ども達の腰の高さほどもあり、様々な秋の植物が生い茂っていた。

・葉や花を摘んでは髪を飾ったり指輪にしたり、子どもも大人も素敵に変身！少しすると、大きいクラスの子を中心にお花屋さんごっこがはじまった。

・男の子たちは生き物探しに夢中。バッタ・トンボ・カマキリ・カエル・しゃくとり虫など様々な生き物が葛の葉の中に潜んでいた。

・昼食前に職員が BBQ コンロでさんまを焼き始めると興味を持った子がのぞきに来た。

・お腹の空いた子から順に楽しみにしていた昼食タイム。さんまは自分で１尾か半分かをえらんで「いただきまぁす」。食べ方の上手な子はきれいに骨をとりみんなに見せて得意げだ。

「みんな素敵に変身」

「海だぁーー!!」

・今までも度々散歩で訪れ、身近な散策エリアの赤川だが、ゆったりと遊びの時間を設定することで、子ども達にとって身近に自然と触れ合うフィールドとなったことを実感した。夢中になって探索するなど、自然の中で味わう心地良さは、体験を通して得られる学びだと感じた。
・初めて赤川で給食を食べる経験では、自分の食具を自分で運んだり、食後は片づけをしたり、自分で持ち帰ったりすることで、最後まで責任を持つ経験ができた。

【平成３１年２月１５日（金）赤川河川敷で雪遊び　（赤川河川敷）】

＜活動内容＞
・土手で尻すべりを楽しむ
・冬探しをしてみよう

活動のねらい
・冬の赤川の景色の違いに気付く
・冬ならではの遊びを全身で味わう

・一面の冬景色となった赤川斜面を越えて、グラウンドを見ると「とうふみたーい！」と目をまるくした子ども達。
・斜面は大きな雪のすべり台に変身。
・川近くの砂利道に氷を発見！大きさを競い合ったり、形を面白がったり。スケートごっこもはじまった。
・斜面の尻滑りのあと、グラウンドへ走っていき、白くて広いキャンバスに「絵を描こう！」と足跡を付けることで大きな絵を描いた子もいた。

「見てみて　“やまがたけん”のかたち」

ひろーいすべり台で思い切り
尻すべりを楽しみました

・今年は園庭の積雪が少なく、例年のように雪遊びができずにいたため、赤川でのダイナミックな雪遊びが子どもたちにとって、心も体も十分に開放される活動となった。
・自然の中で五感を使い豊かな感性を育む経験が、冬景色となった赤川を見てのつぶやきになるなど、子ども達の自由な発想につながったと感じた。このような経験を改めて大切にしていきたい。

東部保育園　齋藤美弥子先生

園から近い赤川河川敷をフィールドにデイキャンプを行い、今までの赤川散歩ではなかなかできなかった「遊び込むおもしろさ」を味わうことができました。自然の中でゆったりと過ごす時間はやはり、子どもたちにとってなによりのあそび（学び）となることを実感しました。また、森の保育活動に参加させていただいた一年は、私自身他県からの移住ということもあり、庄内の自然の豊かさにあらためて魅力を感じた一年となりました。
豊かな大地・海・山で子育てができる喜びをこれからも積極的に発信していきたいと思います。

松原保育園　５歳児 25 名、４歳児 25 名　３歳児 24 名（赤川デイキャンプのみ参加）

【平成 30 年６月６日（水）赤川ネイチャーゲーム　（赤川フィールド）】

＜活動内容＞

・身近な自然環境で様々な自然物と出会う。
・ネイチャーゲームをしながら、草花に触れながら自然あそびを楽しむ。
・草花のお弁当作り。

活動のねらい

・身近な自然環境である赤川河川敷で自然体験を経験する。
・ネイチャーゲームをしながら、初夏の自然に触れる。
・一人ひとりお弁当をイメージし草花を弁当箱に入れていく。
・五感を働かせながら、初夏の自然を感じる。

「のりをまいて、おにぎりできあがり！」

・４，５歳児は親子遠足でお弁当を食べた経験もあり、お弁当というイメージをしっかり持って活動ができていた。
・ただ花や草を摘んで入れるだけではない工夫がたくさん見られ、石を葉で包みおにぎりに、白い綿毛を取ってご飯に見立てるなど、草花から想像して思い思いのお弁当作りを楽しむことができた。
・ネイチャーゲームでは、アリ探し、虫食いの葉っぱ探し、丸い物探しや、長い物探しの４つを行った。年長児が年中児の面倒を見ながら一緒に探すことを楽しんでいる様子もあり、異年齢での関わりがみられた。よく目をこらして見つけなければわからないような、アリよりも小さく赤い色の虫を見つけたり、グランドの中に野イチゴを見つけたり、普段気づかないことを発見でき、自然への興味が広がった活動になった。
・カタツムリやかえるなども見つけ、カタツムリはそれを保育園に持ち帰り園で飼育した。自分たちが見つけたカタツムリを観察したり、世話をしたりする様子が見られた。

「ん～っ　ぬ・け・な・い～！」

・子どもたちが五感を働かせて、ドキドキやワクワクを感じながら活動できた。初夏の自然に子どもたちが積極的にかかわり、いろいろな発見の場になった。
・普段からよく散歩で行く赤川で、身体を動かすだけではなく、自然物に注目する活動だったので、集中して楽しむことができていた。
・初めてネイチャーゲームをした年中児も年長児と一緒に活動するなかで自然に触れる楽しさを感じることが出来た。

【平成 30 年 10 月 18 日（木）デイキャンプ in 赤川　（赤川フィールド）】

＜活動内容＞

- 自然物の中から色の違いに気づき、ゲームを楽しむ。
- 煎餅焼き体験をして、アウトドアクッキングをして食を楽しむ。
- 秋の自然の中でのびのび遊び昼食を摂りながら、自然の中で１日を過ごす。

活動のねらい

- 秋の草花を使って色探しゲームを楽しむ。
- アウトドアクッキングをしながら秋の味覚を味わう。
- 豊かな秋の自然の中でのびのび遊びながら、気づきや感じる力を育む。

「ぜんぶのいろ　みつけたよ！」

- 夏に見た葉の色と、秋の落ち葉の色の違いに気づいたり、赤でも色の濃さが違う発見をしたりする子もいた。また、葉以外の自然物からの色探しもでき、視野が広がったと思う。
- 年齢に合わせ色探しの数を変え（５歳児９種類、４歳児５種類、３歳児３種類）見つけやすい活動だったので意欲的に取り組むことができていた。
- いつも食べている煎餅が、どうやって出来上がるのか目の前で焼くことで知ることができ、食育にもつながった。
- 炭火焼をして、火の扱い方も経験できた。
- 「お外でたべるとおいしいね」と言いながらご飯を食べている子もいて、いつもと違う食事の時間を楽しんでいた。

「やけたかな?」「ちゃいろになってきたよ！」

- 年齢に合わせた色探しだったが、３歳児には少し簡単だったと反省される。
- アウトドアクッキングの火おこしに時間がかかり、子どもたちの待ち時間が長くなってしまった。職員の火おこし経験を増やしていく。
- 赤川フィールドで遊んだりご飯を食べたりすることで、秋の自然を五感で感じながらのびのび楽しめた一日になった。

松原保育園　髙山笑美先生

夏のワークショップでは、参加したからこそ準備物や活動の流れ、安全管理、催し物への取り組み方などを考え、知ることができた。また、大人自身が楽しんで遊ぶ姿が子どもたちにとっての環境になることを感じたので、自園の活動に生かしていきたいと思う。
自園での活動では、ちょっとした工夫をすることで、身近な自然をよく観て楽しむことにつながった。職員間で内容を十分話し合い、連携を図って準備や活動を進めていきたい。

上郷保育園　５歳児１４名　４歳児１２名　３歳児１５名

【平成３０年４月～11 月　季節の草花あそび・生き物探し（保育園周辺・農村公園・せせらぎ公園）**】**

＜活動内容＞

・季節の草花で遊べることに気付く。また、虫探しをする。
・自然物での制作をする。

活動のねらい

・身近な自然環境の中で季節を感じながら、手触りや匂い、色などの気づきや感じる心を育む。
・生き物の不思議さや面白さに気づく。

「本当だ！ピカピカしてきた～」

・絵本で見た『かたばみ』を見つけ、本当に酸っぱいのかな？本当に１０円玉がピカピカになるのかな？と試し、好奇心を満足させていた。
・松葉やオオバコで相撲をおしえてもらうと勝ちそうなものを見つけては友だちや保育者と対戦するが、『オオバコ』がどれか見つけられない子もいて、友だち同士教えあったり、年下のクラスの子にも遊び方を教えたりしている。
・ヨモギ摘みをして匂いを感じ、他の葉っぱの匂いも嗅いでみたり、ヨモギ団子を作ったり松ぼっくりやドングリで遊べるおもちゃを工夫して作って楽しんだりと季節折々の自然物で楽しんでいた。
・自然観察 box(拡大鏡付き）や虫眼鏡、聴診器などの新しいアイテムをフル活用し虫を捕まえてはじっくりと観察し、図鑑で調べては「ちょっと違うから」とバッタの種類を確認して友だちと意見交換などをしている。
・ザリガニを飼育し、何を食べるのかオスとメスはどう見分けるのかなど調べたり、卵をかかえたザリガニを嬉しそうに観察したりお世話しようと張り切る姿もあった。
・飼い始めたカマキリの為にイナゴを捕まえてくるなど、『かわいそう』と思いながらも捕食の様子もじっくり観察していた。卵を産んだので暖かくなってきたこの頃は小さいカマキリが出てくることも心待ちにしている。
・捕まえてきた虫たちをどうするかは、子どもたちでルールを決め、帰りや週末に草原に逃がしたりしていた。中には自分の捕まえてきた虫は逃がしたくない子もいて子どもたち同士で話をしている姿もあった。

「ねぇぼくの落ち葉バナナのにおいする～」
「えー・・・どれ？」

「きこえる？」「うーん・・・」

・絵本で紹介された草花やカマキリの姿を実際に目にすることで感動があったり、知識としてインプットされ、他の子や保育者にも教えるなど興味や関心が広がっていったりする様子が感じられた。事前準備は多くなくとも子どもたちの関心やつぶやきに見逃さずに必要な環境が準備できるよう心掛けたいと思う。
・聴診器に興味を持ちつつ木に当ててもよくわからないという子が多く、もう少し深い森の中でいろいろな木で試す機会を持つなど更に興味が広がるように活動を計画していきたい。

【平成３０年７月１４日（土）　**磯遊び**　（マリンパークねずがせき）】
＜活動内容＞
・キレイな貝殻や流木を拾ったり、海の生き物を見つけたりする。
・岩場でカニ釣りをする。

「魚見える～？」

活動のねらい
・夏の自然に触れてあそび、海の生き物に興味をもつ。
・貝殻や流木を使って制作をする

・貝殻やクルミ・流木などを拾い、「どうして海に木やクルミがあるの」？と不思議がる子に「山から川で流れてくるんだよ」と教えてくれる子がいた。川の始まりを知ったり、石が丸いことなどにも関心をもったりした。
・波打ち際の海底をバケツで覗いて魚を見つけ、網ですくおうとする。
・魚を観察すると海に逃がしていた。
・流木に糸とスルメを付け、カニ釣りをする。なかなか姿を見せないカニに楽しさを感じられない子もいたが、途中まで釣り上げて逃げられた子がいたことでどの子もやる気が出て岩場に張り付いてカニを探していた。
・目が慣れてくるとカニや貝を見つけることができていた。
・後日、流木と貝殻を使って制作をする。

「カニこの隙間に居そうだよ～」

・活動し慣れない海では最初何をしようか戸惑っていたが、波に足が少し濡れると活動も大胆になって楽しむ姿が見られていた。
・保育者も慣れた環境ではなかった為、様子を見ながらの活動だったが、カニ釣りや魚すくいは保育者も本気になって子どもたちと楽しさを共有できていた。

田川保育園　４歳児３名　５歳児２名

【平成 30 年 10 月 19 日（金）　磯遊び（カニしめ、釣り）　（堅苔沢海岸）】

＜活動内容＞

小堅保育園と交流しながら海岸で釣りやカニしめをする。

活動のねらい
- 自分で活動を選んで取り組む。
- 安全な場所と危険な場所を判断する。
- 他園の子どもと交流することを楽しむ。

- 普段あまり見ることがない海岸で活動することで、緊張した様子で始まったが、海や海の生き物に興味が湧いてきて、徐々に活動が活発になっていった。
- 小堅保育園の友達に教えてもらうことで、安心感が広がっていった。
- 生き物を釣ったり、捕まえたりした達成感を味わうことができた。

「初めて釣れたよ」

「そこにカニがいるよ」

- 山の田川の環境と海の小堅の環境を相互で経験できるように、見通しをもって計画することで、活動に継続性をもたせる必要を感じた。
- いつもと違う環境で遊ぶことで子どもの体調の変化などにも十分に配慮することが大切だと感じた。
- 他園の子どもと交流することで、自分の生活等を振り返り園での生活に活かすことができた。

田川保育園　伊藤直樹園長先生

事業に参加して２年目だが、自然豊かな環境を利用してもっと遊びこめる保育を展開する必要を感じた。保育者が安心して子どもの活動を見守っていけるように環境を整備していきたい。また、山や川にこだわらず、身近にある自然を感じるようにし、どんな環境でも森の保育を展開していけるようにしたい。

三瀬保育園　３歳児 13 人　４歳児１６名　５歳児 10 名

【平成 31 年２月 22 日（金）　森の誕生会　（氣比の森）**】**

＜活動内容＞

・毎月行っている誕生会を森の中で行う。

・誕生日を迎えるお友達が喜ぶものを、森の中の自然を使って作ってお祝いする。

活動のねらい

・森の中には遊ぶ素材がたくさんあることを感じる

・誕生日を迎えるお友だちが喜ぶものを、身近な自然物を使って作ることを楽しむ

「ここにぜんぶあつめるよー」

・何度も氣比の森にでかけており、ヤブツバキの花が落ちていることを知っていた。ケーキの飾りに使おうと花を集め始めた。

・3、４歳児はツバキを見て「あった！」「ここにもあるよ！」と嬉しそうに声をあげながら、拾うことを楽しんでいた。

・年長児は、濃い・薄い・もっと薄い色の３種類のツバキがあることに気づいた。

・誕生児を喜ばせてあげようと「どれが好き？」と聞き、よりきれいなツバキを拾い集めていた。

・集めたものでケーキやごちそう、花束などを作っていた。

・プレゼントが完成した子どもは誕生児を招待して歌を歌ったり、一緒に食べるまねをしたりしてお祝いをした。

・好き場所を選んで一人で作る子もいれば、数人で集まって作り始める子たちもいた。そのため、至る所にケーキができていた。

・その中からお気に入りを見つけ、何度も見に行っていた。

・その後も氣比の森に遊びに行くと、遊んだ場所に行っては、少し壊れたケーキに飾りを足している。季節が春に変わり、飾るものもヤブツバキからフキノトウやオオイヌノフグリに変わってきた。

おいしそうな材料がいっぱい

みんなで「おめでとう～！」

・たくさん素材があることで飽きることなく、長時間遊ぶことができた。

・作ったものを残しておけることで、昨日の続きができ、同じ遊びを継続して楽しんでいる。

・一人で黙々と作る子どももいれば数人で作り上げる子どももいて、自由に考えて自分で遊ぶ気持ちを尊重しながらお祝いの気持ちをもって作り上げていることが感じられた。

福栄保育園　５歳児３名　４歳児２名　３歳児６名　２歳児１名

【平成３０年４月～平成３１年２月 自然探検・「わんぱくの森」あそび（福栄保育園周辺,保育園裏山）**】**

＜活動内容＞

・あそびや散歩で、季節の草花の変化や小動物の生息に気づく。

・季節や場所によって草花、小動物に違いがあることに気づいたり、不思議さや面白さを感じたりする。

活動のねらい

・一人一人気づきや不思議など感じたことを声にして、友だちや保育者に伝える。

・いろいろな発見や不思議を共感しながら「なぜ？」を感じ、知ろうとする。

・自然に実ったグミやサクランボを見つけ味わったり、草花の生長の違いを感じ、花や葉脈をルーペで見たり確認しあうことで、季節の変化を感じることができた。

・トンボやイモリを見つけたことから、きれいな空気や水がある所でないと生息していない珍しい種類だということを専門員さんに教えてもらったり、図鑑で確かめたりして身近な自然のすばらしさに気づくことが出来た。

・探索を繰り返していくごとに気づきを声にすることが多くなり、共感してもらえる喜びを感じることが増えて仲間意識が深まっていった。

・「あの場所はどうなっているか見に行こうよ」など自主的な行動意欲が高まった。

「穴だ！
お～い！誰か入ってますかぁ～？！」

「葛のツル引っ張れ！そ～れっ♪」

「木のてっぺん見えないよ～」

・自分の興味関心があることは、友だちを押しのけてでも発言したり行動したりするが、関心がないことには見向きもしない傾向があった。保育者のかかわりをきっかけに、友だちの言葉や行動に共感できるようになってはきたが、まだまだ課題である。

・もっと存分に活動させたり、興味関心を広げたりするきっかけづくりができるよう子どもたちともっと向き合い、自主的活動につながるようにしたいと感じる。

「…ごめん。冬眠するのに起こしちゃった？」

【平成 30 年 10 月 18 日（木）草花で染めものあそび（福栄保育園周辺・園内）】

＜活動内容＞

・草花から色汁が出るということに気づいたことから、色づけを楽しんでみる。
・お家の人と染め物を楽しみ、世界にひとつだけの袋を作る。

「もみもみ…つゆが出てきたぞ♪」

活動のねらい
・草花から色汁が出るということに気づいたことから、色づけを楽しんでみる。
・お家の人と染め物を楽しみ、世界にひとつだけの袋を作る。

・草花を採取して遊んでいたときに、手に草の汁がついて染まり、色があることや染まることに気づいた。
・手だけでなく他の物も染まるのか疑問に思った。
・どんごいの葉は緑だが汁は茶色っぽい。花壇のサルビアの花も見た色とは違う汁が出るのだろうか探究心が大きくなった。
・お家の人と一緒に活動することで、共通話題でつながりが深まり、お家の人も身近な自然の不思議や面白さにふれることができ、自然保育活動に関心をもっていただけた。

・活動を重ねての染め物体験となったのだが、秋となり草花の種類や状態が良くなかったので、子どもたちの手もみ作業も少し大変であった。時期を考えたりしながら、今回の体験をベースに展開させていきたい。
・保護者と日頃の自然保育活動の延長した内容で活動を共有することで、子どもや保育園とのつながりを深めることにつながった。

福栄保育園　本間静華先生

この地域でしか味わう事のできない大自然の恩恵に感謝しながら、今後も子どもたちと一緒に楽しく活動していきたいと思います。生活の中に、当たり前のようにある豊かな自然！日々の忙しさに追われ見落としてしまいそうになるが、ふと足元に目をやると優しくそして強く生きている草花や小動物がいることに気づき、子どもたちと一緒に楽しみ不思議を共感し合えることは、とても幸せな事だと改めて感じることができました。ワークショップに参加した際に、大山のほとりあで捕まえたザリガニは「おだいかんさま」と名付け、我が園のシンボルとなり日々成長を楽しみながら観ています。

大東保育園　５歳児６名　４歳児８名　３歳児７名

【平成 30 年５月 29 日（火）トトロの森、６月２９日（金）怪獣の森探検、１１月６日（火）森の色探し、虫探し、自然物制作　（保育園周辺の森）】

＜活動内容＞

- 保育園周辺の森に散歩に行き、落ち葉や木の実、山菜等に触れる。
- 様々な木や葉の形に興味をもち、森の中の生き物を見つける。
- 探検ルーペや色カードを使用し、色探しをする。（葉や木の実など）

活動のねらい

- 身近な羽黒の自然に触れ、興味、関心を深める。
- 保育者や友だちと一緒に、自然物を遊びに取り入れ楽しむ。

- 森探検を重ねるごとに、子ども達がそれぞれの場所ごとに名前をつけ親しみをもって、でかけるようになった。
- 初めは、森の中を歩くことに不安をみせていた３歳児も、回を重ねるごとに慣れていき、森の中の葉や木の実、虫などに興味をもつようになった。珍しい実や葉、茎などをみつけると、図鑑で調べようとする姿もあり、ごっこ遊びや制作活動に取り入れていた。
- 森の中に入るための身支度（タオル、軍手、長靴など）の必要性にも年齢なりに気付くことができた。
- 自然の中にはさまざまな色があること、季節によってその色が変化していくことに気付き、発見したときは子どもたちのおどろきの表情がみられたり、歓声が聞かれたり、いきいきとした姿がみられた。

- 熊の出没情報と地域の方からの情報をもらいながら、安全に森の中で遊べるようにした。また、ラジオ、熊鈴を携帯するようにした。安全に遊べるための情報収集をいかに早く行うか、地域との連携を今後もしっかりととっていきたい。

大東保育園　　佐藤美穂先生

今年度は、夏と冬の２回のワークショップでしたが、その季節を五感で感じ取ることができる企画になっていてよかったと思います。整えられた人工的な環境の中で安全に遊ぶことに慣れてしまいがちですが、庄内にしかない自然を取り入れた森の保育は、自然の美しさ、大切さ、心地よさ、厳しさに触れることのできる貴重な機会なので、是非継続していきたいと思います。自然の中でしかみられない子ども達のいきいきとした姿を今後もこの「つるおか森の保育」を通して伝えていきたいです。

「どこ？」　「ここだよ！」
森の中は発見がいっぱい

シダの中でかくれんぼ

楽しいな！ネイチャーゲーム
「顔をつくろう」

楽しいな！ネイチャーゲーム
「葉っぱの窓」

森の自然体験

研究会では、保育園に在園している子どもに限らず、一般の子ども、親子を対象とした自然体験活動も推進しており、実施の支援を行っています。

子ども家庭支援センター

【平成 30 年６月６日（水）自然の中であそぼう　春　（湯野浜海岸周辺）】

＜活動内容＞

- 初めての砂の感触に徐々に慣れていく。
- 乾いた砂、ぬれている砂、波が引く際の砂の感触に実際に触れながら、親子で自然の感触を楽しむ。
- 貝殻やシーグラス等を拾ったり、拾ったものを使ったりして遊ぶ。

活動のねらい

- 海辺をゆっくりと散策しながら波打ち際で遊んだり、砂に触れたりして、親子で自然に触れることを楽しむ。
- 雨天時は雨の中の散歩や自然物を使った製作遊びを楽しむ。

「お山ができたよ！「これ（貝殻）のせて♡」

- 砂の感触に慣れず固まってしまったり、抱っこを求めたりする姿が見られたが、母親や、スタッフが裸足で遊び始める姿を見せたり、少し慣れて歩き始めた子の姿を見たりして、ほとんどの子が抵抗なく砂の感触に慣れて遊びだせた。
- 初めは波を怖がる子の姿も見られた。母が貝殻を見つけ拾ってみせると自分から拾い始め、波打ち際での遊びにつながっていった。
- 足がぬれることに抵抗を持ち乾いた砂の上で砂遊びをしていた子も、他児の姿を見て波打ち際で遊んでいた。
- 拾った貝殻、シーグラス、小枝、くるみを使ってケーキにしたり、ままごとのごちそうに見立てたり、枝で砂掘りを楽しんでいた。
- 後半シャボン玉を出すと、吹いても喜んだが、母達が大きく作ったシャボン玉を追いかけて砂浜をかけっこして喜んでいた。

「足　気持ちいい♪」
「砂がうごいてるよ～！」

- 下見を２回行ったが、当日荷物を載せていた車の到着が遅れてしまった。活動場所の候補を幾つか見て決めるようにした方が良かった。水場（水道）が、もっと近くだと良かった。
- 初めての経験や場所に戸惑う姿が見られたり、活動の姿や動きに個人差が見られるので、一人ひとりのペースに合わせて無理なく触れ、興味を持ち、自ら遊びに向かっていけるように側で見守ったり、話しかけたり、興味を引くような声掛けをした。
- 子どもばかりでなくお家の方も楽しんでもらえるようにすることで、次の自然体験につながっていけると思う。

【平成 30 年 10 月 10 日（木）自然の中であそぼう・秋　（櫛引なべっこ広場周辺）】

＜活動内容＞

- 親子でりんご狩り。
- なべっこ広場での散策、虫探し。
- ススキや木の実、落ち葉などを集めて、制作を楽しむ。
- 自然の中でお弁当開きをして、狩り取ったりんごも一緒に食べる。

「足　気持ちいいねー」

活動のねらい

- 散策をしながら小動物に触れ、また、草木や木の実を使ったあそびを楽しむ。
- 収穫体験をし、旬の果物を味わう。
- 自然物を使った制作あそびを楽しむ。

「たくさん入れたいのに
あふれちゃう～」

- バスに乗るのが初めての子がいて、集合前から乗せてもらい笑顔だった。
- りんご狩りでは、真っ赤なりんごに親子共に大喜びで、りんご園の人から話を聞きながら選んで採っていた。
- 子どもたちも自分から手を伸ばしてりんごを採ろうと意欲的で、次々にりんごを採ろうとする姿があった。
- なべっこ広場周辺の散策では、トンボを追いかけたり、地面をはったりした。ダンゴ虫を捕まえたり、木の実をカゴに溢れるほど集めたりする子もいた。
- 天気も良く暖かったので、水場に裸足で入っていき、母親の「魚いるかな～」の言葉に子どもが一生懸命に魚を探す姿があった。
- お弁当の時間に採ったりんごを出すと、おかわりをして食べていた。
- 集めた自然物で制作を楽しんだ。

「これなんだろう」

- ゆったりと親子それぞれが自由に散策したり、あそびを楽しめたりしたようで良かった。
- 今回はリピーターの参加者が多かったが、新規でも参加しやすいように計画していきたい。
- りんご園から広場まで歩く子はどんどん歩いていたが、抱っこでの移動が多かった。歩く経験は大事だと思った。
- 天気雨のため、予定より 15 分早く戻ったが、時間的には適当だった。

鶴岡市子育て推進課　子ども家庭支援センター　渡部理恵子先生

海辺で初めて砂浜の感触を知ったお子さん。歩みだせない姿に保護者の方はゆっくりと慣れて遊びだせるまで待ってくれていました。濡れた砂の上は歩きやすく、その後乾いた砂の上でも遊びだせた姿に『初めての砂浜』が『楽しい砂浜』に変わったことを感じました。自然の中で『初めて』から出てくる言葉や表情、仕草がお子さんにとって宝物であること、その宝物を保護者の方も共に大切にしていただけたら嬉しいなと思いました。

中央児童館

【平成３０年４月２８日（土）ツリークライミングに挑戦しよう！（鶴岡市中央児童遊園内の欅の木）**】**

＜活動内容＞

４回に分けて、１組約７０分ずつツリークライミング体験を行う。

活動のねらい

- 五感を働かせながら自然に親しみ、自然を大切にする気持ちを育む。
- 自分の力で行うことで達成感を味わい活動を通して児童遊園の四季を感じる。

- 初めて体験する子、何回も参加したことのある子さまざまおり、ロープの扱い方、登る手順を覚えるのに若干時間がかかったが、コツを掴むと皆上手に登ることができた。
- 時間が経つにつれて登っていく速さが増していった。
- 普段体験できない高さからの眺めをどの子も楽しんでいる様子で、枝にタッチすることで達成感を味わっているようだった。

「もくもくストレッチ」

「もっと上まで！」

「枝に上がりたい」

- 天気に恵まれ無事開催できて良かった。
- 昨年度開催した１０月とは環境がだいぶ違い、欅の木自体にまだ葉が茂っておらず、クモの巣がなく、蜂の心配もなかったため非常に登りやすいコンディションだった。風が若干あったがかえって心地良く体験することができた。
- 参加した６年生からまた来年もしたいとの声と、親子での体験も可能との講師からの声もあり、来年度開催する場合は対象を検討する必要がある。また、１組に低学年が多いと指導するのが大変そうだったので、なるべく学年が分散するように組み分ける必要がある。

【平成 30 年 6 月 23 日（土）美味草（うまそう）クッキング　（鶴岡市中央児童遊園）】

＜活動内容＞

野草について学び、遊園内を散策して野草を採取し、調理して実際に食べてみる。

活動のねらい

- 身近にある自然に気づき食文化の知識を広げる。
- 自分の力で行うことで達成感を味わい、活動を通して遊園の自然を感じる。

「え、これも食べられるの？」

「野草会食」

- 草調理の際、子どもたちが意欲的だった。
- 会食の際は「児童館にこんなに食べられるものがあるなんてビックリした」「どの野草も美味しい」等、作業を振り返ったり、感想を口にしたり話も弾んでいた。
- はじめは野草を「草」と言っていた子たちが終わり頃になると「野菜」と言い方が変わっていた。

- 今回初めての試みとなった本行事。子どもたちは驚き、発見、満足感、様々な思いを経験できたと思う。
- 参加人数は少なかったが子どもたちが意欲的だったため、皮をむくだけでなく、包丁で切る、炒める、味付けの工程もしてもらった。
- 今後はこの立地を活かした他の活動も模索していきたい。

「フキの皮むき」

【平成 30 年 9 月 13 日（木）なかよしクラブ 秋の遠足　（鶴岡市自然学習交流館　「ほとりあ」）】

〈活動内容〉

- ほとりあ周辺を自然散策（みっけカードを使いウォークラリー）
- ザリガニの観察・ふれあい

活動のねらい

- 親子で気軽に自然に親しむ機会をつくり自然の中であそぶ楽しさを知る。
- 自然の中でゆったりと流れる時間をつくりリフレッシュする。
- 子どもたちの好奇心を育てる。

「下池バックに皆で記念写真」

・散策時多くのトンボが自分たちの周りを飛び回り、頭や指先にとまったりして子どもたちは嬉しそうだった。
・ほとりあ職員の方よりザリガニを水槽に大量に用意してもらい観察を楽しむことができた。
・子どもたちは好奇心旺盛で実際に触れる、掴むことができた子も多かった。

「ザリガニさん　かわいいな」

「トンボさん　どこどこ？」

・自然散策は歩くだけでは物足りないので、“下池”“蓮の花”“鳥”“ザリガニ”といったものを見つける楽しさを味わえるように“みっけカード”を準備した。
・当日、蓮は下池ではなく上池に咲いていたり、鳥がほとんど飛んでいなかったり予想外だったが、心地良いそよ風を感じつつ広大な野原を散策することを子どもたちは楽しんでいて良かったと思う。
・児童館ではできない活動が沢山できたと思う。

【平成 31 年２月２日（土）ひろっぴあで雪遊び　（鶴岡市中央児童遊園）】

〈活動内容〉
・雪でつくったすべり台遊び（そり・肥料袋のそり・タイヤチューブ）
・色水で雪にお絵描き
・雪中みかん探し
・白玉入りおしるこ会食（他、温カルピスや温麦茶も提供）

活動のねらい
・学校や学年の違う友だちと遊ぶことの楽しさを感じる。
・冬ならではの自然に親しみ、雪でつくったすべり台や色水遊び等普段できない遊びを寒さに負けず体験し楽しむ。

「色水で雪にお絵描き」

・タイヤチューブの遊びをとても楽しんでいた。
・そり滑りや色水での雪へのお絵描きも「こうしたら良いかな」等時間が経つにつれ遊びを工夫していく子どもたちの姿が見られた。
・そり滑りはスリルも味わえたようで熱中し、１時間みっちり遊んでもまだ遊び足りない子もいたようだった。

「スリル満点チューブ滑り」

「雪の中からみかんゲット！」

・今年度は寄付していただいたタイヤチューブを使った遊びもすることができた。
・Ｓ字のそり滑りコースをつくるのはカーブ箇所の深さや角度の調整が大変なのだが子どもたちが毎回楽しみにしているので今後も続けたい。（今年度が３回目）
・どうしても天候状態に左右されてしまう企画だが、鶴岡の冬、雪を満喫できる良い機会と位置付けている。
・今回のチューブ滑りやおしるこ等、新しい試みも行っていきたい。

鶴岡市中央児童館　安野　広典先生

ワークショップの打ち合わせ等で他施設・園の先生方と一緒に活動させていただき、得るものが多く勉強になりそれだけでもありがたかったです。今年度も児童館では施設内外でさまざまな事業を行い、森の保育事業からの助成のおかげで充実した内容のものを子どもたちに提供することができました。今後も自然豊かな立地を活かした事業を展開していきたいと思います。１年間ありがとうございました。

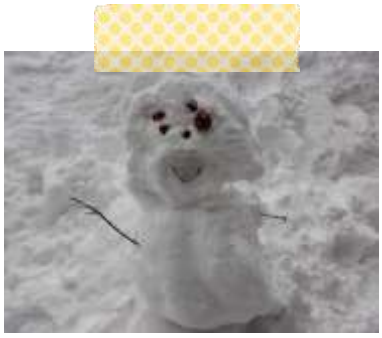
ワークショップ（夏・冬）

四季折々の豊かな“ありのままの自然”を楽しんでもらうというコンセプトで今年度は夏と冬に２回実施。
事前準備をしすぎず、参加者それぞれが、自然の中で自分なりの遊び方や楽しみ方を見つけてもらうことに取り組みました。

☆日時　７月 21 日（土）９時 30 分～13 時
☆参加者　未就学児とその家族
　（大人９人　子ども 10 人　スタッフ 18 人　合計 37 人）
☆会場　大山下池・都沢湿地
☆内容　大山下池・都沢湿地をフィールドに自由遊びを楽しんだ。ザリガニ捕りに挑戦してみる子が多く、子どもがザリガニをためらいなく素手でつかもうとしている姿に親が驚くなど、親にとって新たな発見をしたようだ。

冬

☆日時　２月 16 日（土）10 時～13 時 30 分
☆参加者：未就学児とその家族
（大人６人　子ども９人　スタッフ 13 人　合計 28 人）
☆会場　創造の森（羽黒）
☆内容　やまがた庄内ネイチャーゲームの会のコーディネートのもと、羽黒の創造の森主変の散策を行った。動物の足跡や、新芽、うさぎの糞などを見つけ、動物の存在を感じ、何をしていたのか想像を膨らませた。また、雪原では思いのままそり遊びや、転がったり、走り回ったり、自由に遊んだ。子どもも初めは緊張があったが、活動していくにつれて、自分から楽しいことを見つけていた。



つるおか森の保育フォーラム

先進的な取り組みをしている森の保育実践者の講演やパネルディスカッション、当研究会の活動報告などを行い、保育者・保護者はもとより、広く市民を対象に学習の場・情報交換の場として、開催しています。今年度は活動報告と講演会、座談会の３部形式で開催しました。

〇日　時　11 月 18 日（日）13 時～16 時
〇来場者　116 人
〇会　場　出羽庄内国際村　ホールほか
〇内　容　第１部　講演　「子どもという自然」　講師　小西　貴士　氏
第２部　座談会「森の中の子どもたち　～八ヶ岳の森から鶴岡の森をながめて～」
座 長　平　智　氏
メンバー　伊藤直樹、斉藤康子、菅原光輝、髙橋奈津、和田朋子（敬称略）

第１部で、自然に対しても、子どもに対しても、様々な見方があるということをスライドショーとともにお話しいただいた。
第２部では、八ヶ岳の研修から、鶴岡の活動を振り返り、保育者のさらなる学びが必要であることを共有した。また、鶴岡において保育者同士が学べる共有の場の必要性が掲示された。鶴岡らしい森の保育事業の推進を今後も考えていくことを確認したフォーラムであった。

写真パネル展

「つるおか森の保育事業」及び「つるおか森の保育研究会」について、広く一般の方に知っていただくことを目的に、写真パネル展を開催しました。森や川、海など身近な自然の中でいきいきと活動している子どもたちの様子や各園の工夫を凝らした活動を紹介しています。

〇開催期日　平成 30 年 11 月 1 日（木）～16 日（金）
〇開催場所　鶴岡市役所　1 階　市民ロビー
〇内容　　今年度の活動を紹介した写真パネルの展示

研修会

〇開催期日　平成 30 年 7 月 12 日（木）10 時 20 分～15 時 45 分
〇開催場所　自然学習館「ほとりあ」学習交流室
〇内容　　講演　「今必要な『4 つの体験』」
講師　長南　博昭　氏　（元山形県教育委員長・YBC 審議会長）
長年教育に携わった経験から。快適利便な生活が人間性の消失を招いている現状を話され、感性が人間性の基盤を創出するものとし、子どもの感性を解発する体験として「二極対立体験」「境目体験」「追体験」「原体験」が必要であるとお話しされた。
〇参加者　　25 人

○開催期日　平成 30 年 11 月５日（月）～６日（火）
○開催場所　ぐうたら村（山梨県北杜市）
○内容　　11 月５日
Activity①　「自然に対するまなざしをストレッチする散策」
森の案内人と一緒にていねいに秋の森や野を歩く
Activity②　「汐見先生のフォロー・レクチャー」
散策の時間を受けてヒト・育ちについてのまなざし
Activity③　「汐見先生のフォロー・レクチャー」
ヒト・育ちについてのまなざし
11 月６日
Activity④　「暮らしに対するまなざしをストレッチする時間」
畑や堆肥など暮らしのミニツアー・体験

フォーラムの講師である小西貴士氏の活動フィールドである山梨県北杜市清里を訪問し、研修をうけ自然保育実践にあたっての考え方を学んだ。１泊２日の日程で、小西氏のフィールドワーク、汐見稔幸氏のレクチャーをうけ、自然や子どもに対するまなざしの多様性を学んだ。
○参加者　　19 人

資　料

森の保育だより　第２号発行

つるおか森の保育研究会

次代を担う子どもたちの豊かな感性や健康な心身を育てるために、森林や自然環境を活用した具体的方法についての情報収集や活動支援、研究を行っています。

●発足：平成２２年４月
●構成：学識者・保育園・児童館、子育て支援関係者等。（２６団体・個人）
●主な事業：交流保育、自主保育、小学生や親子対象の体験活動、勉強、ワークショップ、フォーラム

つるおか森の保育研究会
事務局：鶴岡市健康福祉部子育て推進課
山形県鶴岡市馬場町９番２５号
TEL:0235-25-2111　FAX:0235-25-2167
E-MAIL:kosodate@city.tsuruoka.yamagata.jp

平成３１年３月発行

出かける時の服装

ちょっと暑くても、長袖・長ズボンで出かけましょう。ケガや虫刺されを防ぎます。

♪ぼうし→強い日差しや小雨から頭を守ってくれます。
♪くつ・長靴→はきなれていて、汚れても大丈夫なものをはきましょう。
♪水とう→こまめに水分補給をしましょう。

水辺でのワンポイント
・海や川の日差しは強いので水着の上にラッシュガードやTシャツを着ると背中の日焼けが防げます。
・ビーチサンダルは、滑りやすいところでは避けましょう。

危ないよ！気をつけて！

ウルシの仲間
触るとかゆくなったりかぶれたりするよ。

ツタウルシ

ヤマウルシ

ハチ・ヘビ（マムシ・ヤマカガシ）
見たら近づかない、触らない！

スズメバチ　マムシ　ヤマカガシ　ヤマかがし（幼蛇）

※木の実やキノコなどは口にしない。山菜などは絶対に採らないようにしましょう。

とっておきの１枚

「パッタさん いるかな～」
「高くて いい眺め♪」
「おばけだぞーー！」

カニ釣りのさおを作ってみよう

<材料・作り方>
・わりばし　・たこ糸

1. 割りばしのさけている所に糸を挟んで結びます。
2. えさはスルメ（さきいかも OK）5cm×1cmくらいにカットしてぐるぐるとたこ糸を巻いて、強く結んでできあがり！

さあ出かけよう♪

目を閉じて、耳をすまして

つるおか
森の保育
だより
第２号

ゆっくりと深呼吸
どんな音が聞こえる？

⑦ 市野山 カマキリ公園（いずみ保育園そば）
☆くずのつるひっぱり・リース作り
生き物探しなど
くずのつるをつなぎ合ったり、引き抜いたつるでなわとび！
引き抜いたつるでリース作りもできますよ。
フェンスにカマキリがいっぱいいたから「カマキリ公園」って
ゆんでるんだ～♪

「よいしょ。
登ってみっぱってみよ～！」

「みんなのおかで
うんとさしょ、どっこいしょ！」

② やすらぎ公園（田川保育園そば）
☆散策・自然物ひろい・生き物探しなど
ゆったりと広い敷地なので、ゆっくりのんびり過ごせます。
虫や草花もたくさんいるので、観察や自然物ひろいも！
風や川の音が聞こえて気持ちがいいですよ♪
冬は雪の中で思いっきり遊ぶこともできます！

「わたしの
フォーカ！」

「何がいるのかな？」

③ 八沢川せせらぎ公園（HSK）
☆川遊び・生き物探しなど
川の水の冷たさや流れを体験できます。川の底には色々な大きさや色の石がたくさん！お気に入りの石を探すのも楽しいかも♪網を使ってザリガニやヤゴ、どじょうなどの生き物探しや植物の観察もできますよ♪

～私たちの活動場所を紹介します～
さぁ、森へ♪

⑥ 三瀬 ひゃくねん森
☆散策・生き物探し・草花摘み
自然物ひろいなど
ひんやり澄んだ空気に包まれながら、のんびり過ごせます。観る物・触れる物・出会える物がたくさんあるので、五感を使った散策や、じっくりと観察も楽しいですよ♪
ビオトープくりなど様々な体験プログラムも楽しめます！（体験プログラムは事前申し込み）

「カニって食べられるの？」
「おそるおそる～
「いわがきます～」

「カニそっちいったよ！！」
「まかせて～」

⑤ 三瀬 八森山
☆草花摘み・木の実ひろい・生き物さがしなど
広いフィールドで草花を摘みながらお花のお弁当作りやしゃぼん玉の追いかけっこなどが楽しめます♪
焚火クッキングも出来るので、焼き芋や笹戸で板を焼いて味わうのもいいですよ！

「海で見て！
わたしのパッタさん♪」

④ 髪菜沢海岸
☆散策・カニ釣り・魚釣り・貝とりなど
大きな岩の陰になり、波も少なく、浅瀬なので、小さいお子さんも遊びやすいですよ。
岩の下にはカニがたくさん隠れていて、探すのも楽しい♪干潮は力ニの動きが鈍くなるので、カニと仲良くなるチャンス！

「海ってっ！
空気で気くんじゃない？！」

※海・川などでお子様には大人が目を離さないようにしましょう。海の満ち、川の水位・流れなど変化にはやはり注意して安全に遊び方を工夫しましょう。

資　料

つるおか森の保育研究会の概要

幼児期における森の保育の意義

東北一の面積を誇る鶴岡市は、市域面積 132ha のうち約７割が森林であり、その豊富な森林資源を活用して行政施策を展開する「森林文化都市構想」を掲げています。

人と自然との直接の対話こそが森林文化の原点であるという考えのもと、当研究会は平成 22 年４月に発足し、次代を担う子どもたちの豊かな感性や健康な心身を養うために、森林や自然環境を活用した具体的方策についての情報収集や活動支援、研究を行っています。未就学児童の自然環境に親しむ中での「気づき」や「感じる心」を育み、共感の心や見る力を養うことを大切にして各種事業に取り組むことで、豊かな保育・子育てを支え、保育の質を高める一つの道しるべとなることを期待しています。

組織・運営体制

つるおか森の保育研究会は、保育園、児童館、子育て支援関係者等で構成しています。

■研究会の構成（平成３０年度末現在、２６団体・個人）

〇会　員

神田　リエ	会　長	元山形大学農学部 生物環境学科助教
本間　日出子	副会長	三瀬保育園 園長
伊藤　直樹	副会長	田川保育園 園長
齋藤　由美子	かたばみ保育園	園長
佐藤　静子	東部保育園	園長
阿達　美枝	西部保育園	園長
高取　千昭	南部保育園	園長
髙橋　奈津	松原保育園	園長
羽生　　充	ちとせ保育園	園長
高橋　　亨	大山保育園	園長
白幡　昭平	大泉保育園	園長
佐藤　崇昌	民田保育園	園長
土岐　邦子	小堅保育園	園長
秋野　涼子	上郷保育園	園長
渡部　祐子	朝日保育園	園長
今野　睦子	黄金保育園	園長
佐藤　美穂	大東保育園	園長
丸山　弘美	いずみ保育園	園長
五十嵐　美智	福栄保育園	園長
齋藤　　聡	中央児童館	館長
太刀川　悦子	NPO 法人みらい子育てネット山形	理事長
石田　　幸	元中央児童館長・元公立保育園長	
長谷川　真弓	元中央児童館長・元公立保育園長	
伊藤　慶也	環境課長	
本間　　明	農林水産部農山漁村振興課長	
熊坂　めぐみ	子ども家庭支援センター所長	

〇顧　問

平　　智　　山形大学農学部食料生命環境学科教授

交流保育

市街地にある保育園の子どもたちが、自然に恵まれた環境にある保育園を訪問し、自然体験活動をとおした交流保育を行います。

小学生や親子対象の体験活動

子ども家庭支援センター、中央児童館が実施している事業で、森や海で、ダイナミックに自然の雄大さを体験します。

ワークショップ

親子で森の保育を体験できるワークショップを開催しています。各施設において森の保育に携わっている会員等の勉強の場でもあり、横の連携が図られます。

自主保育

日常的な保育に自然体験活動を積極的に取り入れます。活動フィールドは、園周辺の身近な自然から、大きな自然まで様々です。

食　育

地域で採れるきのこや山菜、魚など自然のめぐみを活かした食育の推進に取り組んでいます。

フォーラム

先進的な取組みをしている森の保育実践者の講演や当研究会の活動報告等を行い、保育者・保護者はもとより、広く市民を対象に学習の場。情報交換の場を提供します。

30 年度 つるおか森の保育活動記録

おもしぇっけの～♪

森

令和元１０月発行

つるおか森の保育研究会

事務局：鶴岡市健康福祉部子育て推進課

山形県鶴岡市馬場町９番 25 号

TEL 0235-25-2111

FAX 0235-25-2167

E-Mail kosodate@city.tsuruoka.yamagata.jp